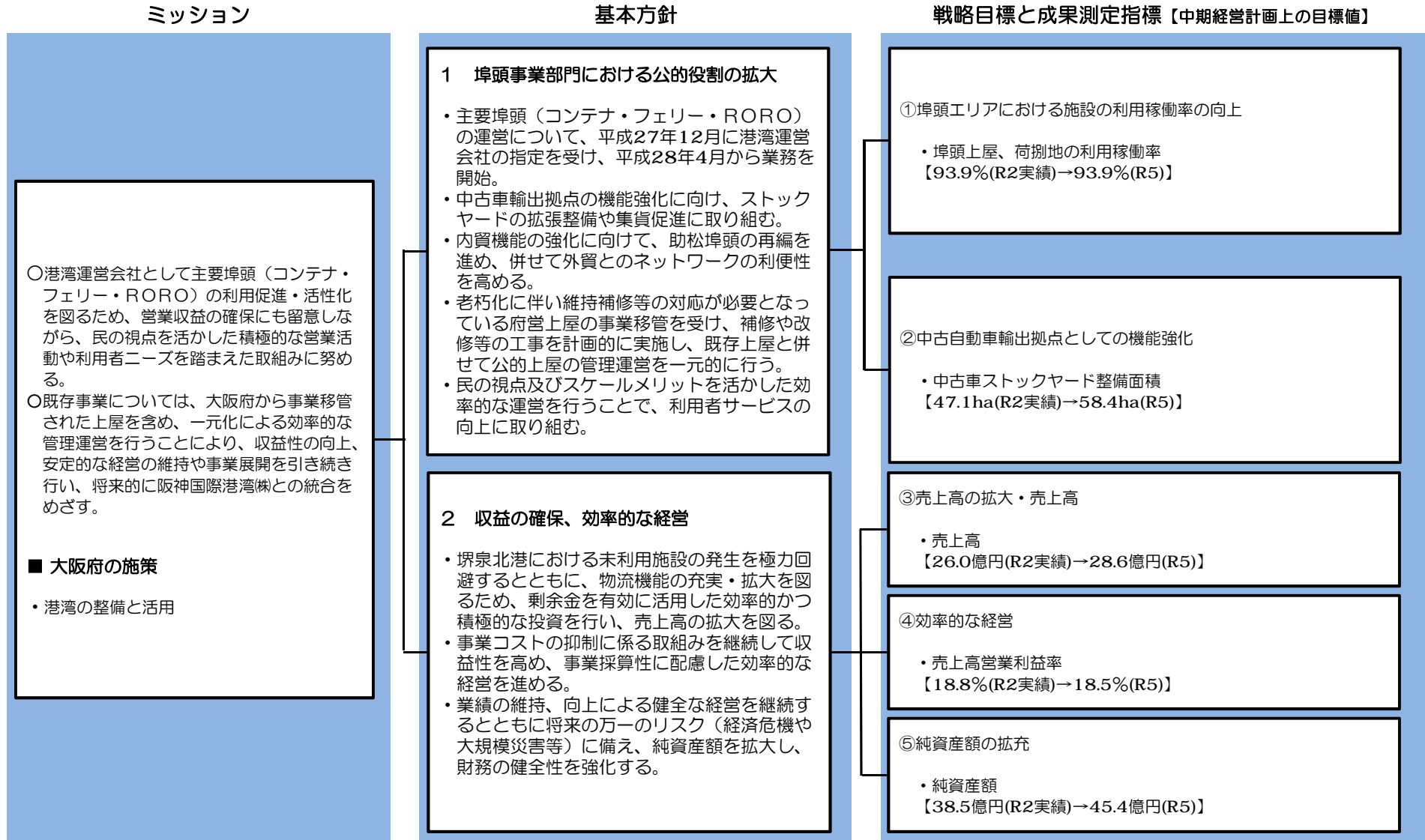


法人名	堺泉北埠頭株式会社
作成（所管課）	大阪港湾局

## ○ 経営目標設定の考え方



法人名	堺泉北埠頭株式会社
-----	-----------

○ 令和3年度の経営目標達成状況及び令和4年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 【見込値】	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R3~R5)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R4 目標値	最終年度 目標値	
① 埠頭エリアにおける施設の利用稼働率の向上	埠頭上屋・荷捌地の利用稼働率 (埠頭上屋・荷捌地の貸付面積×年間契約月数)÷(埠頭上屋・荷捌地の全面積×12か月)×100%		%	40	93.9	90.8	[96.2]	↓94.8	40	93.9	93.9	・上屋やフェリー、内賃ROROで取り扱う貨物やコンテナについてはR4年度も堅調に推移する見込み。 ・当港の主力貨物である中古車についてもR3年度に引き続き需要が旺盛に推移する見込みであるが、R3に発生した中古車輸出における物流停滞は一部解消を想定。また中古車供給量に大きく影響する新車生産量が半導体不足等に伴う部品逼迫などにより落ち込み、それに伴う中古車オークション出品台数の低下などにより供給制約が発生する見込みであることから、一部荷捌地の返却を見込んでいる。 ・以上から、R4年度の利用稼働率はR3実績を下回るものの、中期経営計画を上回る目標を設定する。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、経営上の位置付け	○当社は、収益性の向上、安定的な経営の維持を図り、大阪府の港湾施策に最大限貢献していくことを目指している。民の視点で利用者ニーズをより的確に把握してサービスの向上を図ることにより、埠頭の更なる利用促進・活性化を図ることが、当社の最大のミッションであり、その成果は施設稼働率に反映されることから「埠頭エリアにおける施設の利用稼働率の向上」を最重点戦略目標に設定した。 なお、「埠頭エリアにおける施設」とは、助松埠頭や汐見埠頭などの埠頭において当社が所有する「埠頭上屋」及び港湾運営会社の主要経営資源である「荷捌地」を対象とする。											
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	【課題】 新型コロナによる仕向国の不透明な国内情勢(ロックダウン等)や中古車相場の高騰、船積やその他輸出周辺国コストの負担増などの影響による中古車やコンテナ等の物流が低迷し、荷捌地の利用率の減少に加えて埠頭上屋の利用率の減少も危惧される働き方改革の進展に伴う利用各社の労働力確保 業務量増加に伴う社員数の増加に対応したガバナンスの強化 【改善点】 船社や荷主、港運事業者など多方面な業種との情報共有と各社のニーズに即した柔軟な対応による現利用者の支援強化と新たな利用者の獲得に向けた営業活動 埠頭上屋に加えて付属事務所の設備更新(特にトイレ、照明灯のLED化)による労働環境の改善 社員一人ひとりの意識改革を図り、港の管理運営を担う、人材育成に取り組む											
活動方針	【埠頭上屋・荷捌地の利用稼働率向上の方針】 上屋や荷捌地の利用稼働率は新型コロナウイルス感染症状況や世界経済の状況、また地政学的リスクなど様々な要因により左右されるものであるが、下記取組みを行うとともに積極的な営業活動を行うことにより利用稼働率の減少を抑制する。 ①埠頭上屋賃貸 ・景気や世界情勢等の影響を受けやすい貨物を扱う上屋については、多様な貨物など新たな利用者の開拓に努め利用率の維持・向上を図る。 ・上屋の老朽化対策について、急激な費用増に配慮しつつ、計画的な補修改修を行う。 ・上屋本体における利用者ニーズに応じた改良や機能高度化といったサービスの改善に取り組む。 ・利用者の執務場所である付属事務所や周辺施設(トイレ)の環境改善により利用者の働き方改革を支援する。 ・既存上屋と併せ、公の上屋の一元的管理により、効率的運営とサービスの向上に取り組む。 ②荷捌地運営 ・コンテナ貨物については、新たなサービスの提供(内航航路の定期化、新規ストラドルキャリアの導入準備等)やポートセールスの強化により、コンテナヤードの利用稼働率の維持・向上に取り組む。また、コンテナヤードと中古車ヤードの利用者要望に応じて柔軟な貸付を行う。 ・中古車輸出拠点の機能強化に向け、中古車関連サービスの誘致・建設支援により、特に検査制度をはじめとする輸出環境の変化に迅速・柔軟に対応する。 ・船舶の大型化への対応、維持補修での迅速な対応、及び施設の改良工事等の利用者ニーズへの的確な対応により、効率的で使いやすい港湾運営に努める。 ・外航船舶(自動車専用船)と内航船舶(ばら積貨物船)が混在する汐見5号岸壁においても、他の岸壁と一体的で効率的な岸壁運営に取り組む。											
	○埠頭上屋(上屋賃貸事業) 1. 利用者ニーズを的確に把握し施設の機能更新、高度化の実施 2. 工事の一括発注によるコストの低減及び効率的な管理運営の実施 ○荷捌地(埠頭運営事業) 1. 中古車輸出機能の強化 ①関連施設用地の使用料50%減免などにより、検査施設やフォスタジオ等の中古車輸出関連サービス施設の整備・誘致を支援 ②主力のニュージーランド向け輸出のための検査が厳格化されたことから、中古車の熱く蒸気施設の整備・誘致を支援 ③新たな利用者へのきめ細やかなサービス提供 ④夕風保管ヤードの拡張整備 2. ポートセールスなどの積極的な営業活動 ①自治体、関係団体等と連携したセールス活動(セミナーの開催等) ②海外プロモーションの実施 等 ③独自の優遇制度を活用したポートセールスの実施 ・船舶大型化・増便や新規航路開設による拡充分に対し、岸壁使用料等を最大75%減額 ・不足する荷捌地を効率的に運営した利用者への利用料減免 ○質の高い利用者サービスの提供 1. 新規の優遇措置制度の検討・立案 利用者ヒアリングや営業活動によって新たなニーズの掘り起こし 2. 良好な施設の維持管理 ①日々の点検・巡視業務により、予防保全が効果的な箇所を早期補修し、施設を良好な状態に保つ ②利用者との対話から施設不具合発生時は即日着手を基本に迅速な対応に努める 【埠頭上屋】・外壁等の防錆塗装・老朽シャッターの取り換え ・電気・消防施設等の点検整備 等 【荷捌地】・舗装補修・荷役機械等の点検・補修 等 3. 施設の改良・機能高度化 利用者要望、新たなニーズ・業界の動き等の情報を適確に把握し、将来にわたる顧客確保に努める 【埠頭上屋】・付属事務所トイレ改修 ・上屋周辺支障樹木伐採 等 【荷捌地】・新規の荷役機械(ストラドルキャリア)の導入準備 ・既存の荷役機械の適正管理 ・利用者要望に応じ、検査施設、フォスタジオの設置 ・港湾施設遠隔監視システムの増設(カメラ設置) 等											

法人名	堺泉北埠頭株式会社
-----	-----------

## II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R3～R5)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
② 中古自動車輸出拠点としての機能強化	中古車ストックヤード整備面積		ha	25	(47.1)	48.1	[50.6]	53.6	25	53.6	58.4	・中古自動車輸出拠点として機能強化を図るため、中古車輸出機能の夕嵐地区への集約に必要なヤード整備を計画的に進めるため、R4においては中期経営計画と同じ目標値を設定する。 ・港湾計画に基づく埠頭再編を推進するため、大阪港湾局と情報交換や協議を行った上で、港湾事業者等の関係者と具体的な移転時期や移転内容等について協議・調整を図りつつ必要なヤード整備を行う。	・港湾計画に基づく埠頭再編を推進するため、大阪港湾局と情報交換や協議を行った上で、港湾事業者等の関係者と具体的な移転時期や移転内容等について協議・調整を図りつつ必要なヤード整備を行う。

## III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

③ 売上高の拡大	売上高		千円	10	(2,604,610)	2,581,425	[2,708,000]	↓ 2,693,000	10	2,739,000	2,861,340	・コロナ禍における世界的な物流の乱れが続くなか、青果事業では新商材を含めた集荷活動等でR3の売上高を維持する一方で、埠頭運営事業では半導体不足に起因した新車減産に伴う中古車供給制約により中古車輸出台数の減少が見込まれることから、荷捌地使用料などの減収分を考慮した売上高を計上する。	・埠頭運営事業(港湾運営会社)の稼働率の向上に向けた新規航路開拓や大阪港と連携したポートセールスの実施、埠頭再編に向けた保管ヤードの拡張・整備、中古車輸出事業者の利便施設等の整備・誘致、青果事業におけるコロナ禍に対応した集荷活動や輸出貨物を含めた新商材の集荷に向けた取組み等を行う。
④ 効率的な経営	売上高営業利益率 (営業利益/売上高)		%	15	18.8	13.1	[20.3]	↓ 16.2	15	16.0	18.5	・既存管理施設の計画的な修繕・改修や既存利用者へのサービス向上などに対する投資に加え、大阪府所有の老朽化した特高受電設備の改修費の一部負担や新規事業の検討業務など積極的な投資を図っていくことに努めることを踏まえ、目標値を設定する	・中古車輸出台数の減少に伴い一時的な減収を見込んでいるが、新規航路開拓や既存販路拡大を図るため積極的な営業活動等を行うことによりその影響を最小限に留め、売上高の確保を図る。また老朽化した施設の改修、修繕を行い、顧客満足度の向上を図るとともに、新規事業にも積極的な投資を行うことにより売上高の拡大を図るとともに、費用の節減を行い、10%以上の利益率を確保する。
⑤ 純資産額の拡充	純資産額		千円	10	3,853,996	4,035,493	[4,183,996]	4,423,796	10	4,240,000	4,537,632	・算出した経常利益を基に法人税等を控除した純利益に、20,000千円の株主配当を考慮した額を計上した。	・府営港湾の運営という公的役割を認識しつつ、埠頭運営事業(港湾運営会社)の円滑な事業推進や発展を目指すほか、新たな事業の収益の増加と費用を抑制し、財務の安定を図り、経済危機や大規模災害等のリスクへの備えや株主への安定的な配当につなげるため、純資産を拡充する。

### 【凡例】

- ・☆はR4年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
埠頭上屋・荷捌地の利用稼働率	%	[96.2]	94.8
売上高	千円	[2,708,000]	2,693,000

マイナス  
(現状維持)  
目標の考え方

○R3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、2009年のリーマンショック時に貸付施設の返却があった事例を参考に一部施設の返却を想定していた。しかし、世界的な経済回復やコロナ禍における移動手段としての自動車需要の高まり等に伴う中古車輸出需要の増加、さらにはコンテナや上屋の貨物需要が堅調に推移した。さらに、世界各国において断続的にロックダウンが実施され、特に中古車輸出において物流停滞が発生したことから、臨時的荷捌地利用があり、過去最高の利用稼働率・売上高を記録した。

○R4年度は、R3年度に引き続き上屋、フェリー、内貿ROROで取り扱う貨物、コンテナ、中古車の需要は旺盛に推移する見込みであるが、R3に発生した中古車輸出における物流停滞は一部解消を想定。また中古車供給量に大きく影響する新車生産量は、半導体不足等に伴う部品逼迫などにより落ち込み、それに伴う中古車オークション出品台数の低下などにより、供給制約が発生する見込みであることから、中古車輸出台数の減少及び一部荷捌地の返却を見込む。以上からR4年度の利用稼働率及び売上高はR3実績を下回る目標を設定する。

○なお、積極的な営業活動等の経営努力を行うことにより上記影響を最小限に留め、利用稼働率及び売上高の維持・拡大に努める。

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
売上高営業利益率(営業利益/売上高)	%	[20.3]	16.2

マイナス  
(現状維持)  
目標の考え方

○既存管理施設の計画的な修繕・改修や既存利用者へのサービス向上などに対する投資に加え、老朽化した特高受電設備の改修費、新規事業の検討業務、新規荷役機械の導入準備など、新規顧客の獲得など事業拡大に資する新たな事業への積極的な投資を図っていくことからR3年度に比べて費用が増加し、R4年度の売上高営業利益率はR3実績を下回る目標を設定する。